

シンガポールにおける大型住宅・商業複合開発プロジェクトに着手

鹿島(社長:押味至一)のアジア開発事業統括会社であるカジマ・デベロップメント社(社長:大石修一、以下 KD)と、シンガポール政府系メディア企業であるシンガポール・プレス・ホールディングス社(Singapore Press Holdings Limited、以下 SPH)が共同で設立したシンガポール法人(出資比率 50:50)は、同国都心から北東へ約 5km に位置するビダダリ地区土地(2.54ha)に応札、約 900 億円で落札しました。今後、住宅・商業の複合開発プロジェクトに着手します。



ビダダリ地区開発イメージ※

本事業は、シンガポールの地下鉄(MRT)北東線ウッドレイ駅に直結する、住宅・商業用地における複合開発事業です。同地区は、主要高速道路やバス・インターチェンジにも隣接する交通至便な立地であり、至近には「アルカフ・レイク」や「ビダダリ・パーク」を見渡すこともできる、緑豊かで自然環境に恵まれた新興住宅地です。600戸を超える分譲住宅や、延床面積約27,000㎡にわたるショッピングモールのほか、コミュニティー・クラブや警察署等で構成される、超大型開発プロジェクトとなる予定です。

これまでシンガポールにおいては、鹿島のアジア統括現地法人であるカジマ・オーバーシーズ・アジア社(以下 KOA)が、ミレニア・シンガポール複合開発、71 ロビンソンロード・オフィス、バルモラル住宅、ビショップスゲート住宅などの開発事業を手掛けてきましたが、2017年1月、KOAの開発事業部門が分社化され、KD が設立されました。

KD と SPH の両社は、それぞれの強みである技術や知識、経験を生かし、強いパートナーシップのもと、本プロジェクトをすすめてまいります。

※ 画像はイメージであり、今後の計画により変更になることがあります